

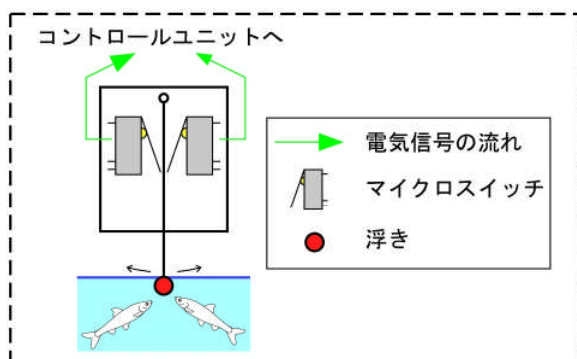
魚がスイッチを入れて餌を食べる！

キングョやホンモロコの養殖場では、指定した時間に決まった量の餌が与えられる「タイマー給餌」が普及しています。しかし、餌の量が多かったり少なかったり、また食べ残しにより水質が悪くなったりすることがあります。

そこで、魚がスイッチを入れて、食べたいときに食べたい量の餌を食べられるような仕組み『自発給餌システム』を開発したところ、効率よく育てることができました。

1 自発給餌システム

自発給餌システムは、先端に直径10mmの浮きを付けた針金をマイクロスイッチで挟み、魚が浮きをつつくと針金が動いてスイッチがはいる、餌が出てきます。



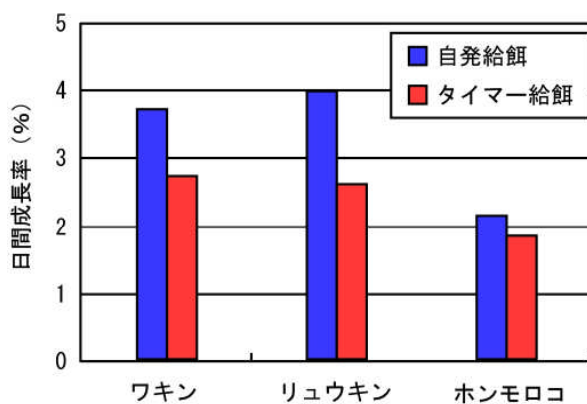
【自発給餌機センサー(略図)】



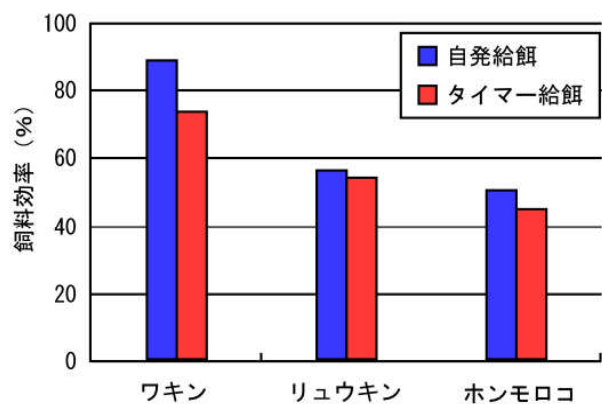
【センサーを動かし餌を食べるキングョ】

2 自発給餌システムの効果

キングョの品種であるワキン、リュウキンと、ホンモロコを対象に自発給餌システムを使うと、従来の方法より効率よく魚を育てることができました。



【各魚種の日間成長率】



【各魚種の飼料効率】